第６回まち交大賞 応募用紙【完了地区】 別紙４①

Ｎｏ．	事務局記入

都道府県	福井県	市町村名	鯖江市	地区名	河和田地区	面積	260ha
計画期間	平成 17 年度 ～ 平成 21 年度			交付期間	平成 17 年度 ～ 平成 21 年度		
交付対象事業費	470	百万円		交付限度額	188	百万円	

■アピールポイント

当地区は、1500 年の伝統を持ち、昭和 50 年に伝統的工芸品の指定を受けた「越前漆器」の産地である。近年では福井豪雨により甚大な被害を被ったが、住民と行政が一体となり精力的に復興に向けた活動を展開し、当市を代表する産業観光地へと変貌を遂げた。

■現況・地区特性

鯖江市の東部に位置する河和田地区は、基幹産業のひとつである越前漆器の産地であり、日本有数の漆器産地として栄えてきた。

■課題

福井豪雨災害からの復興にあわせ、若者の定住促進や、伝統産業の復興（後継者確保）など、外への情報発信と内での活性化対策が必要である。

■事業の特徴

福井豪雨災害からの復興にあわせ、伝統産業の地らしいまちづくり、道路等の整備改善による安全性、快適性の向上および災害に強いまちづくりを図る。

舗装高質化した中道通りと沿道の修景された民家

計画：Plan	■都市再生整備計画におけるテーマの設定、まちづくりのアイデア、計画策定のプロセスの工夫や特徴について記入して下さい。 ・生活拠点の形成・・・水害復興の家屋損壊等の改修にあわせ、伝統産業にふさわしい和風の住環境に整えたい。 ・観光客の誘導・・・メインストリートを街中観光の骨格として位置付け、道路舗装を高質化するとともに周辺道路を改修することにより、「住んで良し」「働いて良し」「訪れて良し」の楽しくなるようなゾーンへと整備する。 ・交通環境の改善・・・道路の拡幅により安全性を高めるとともに公共下水道を整備し、生活環境の改善を目指す。
実施：Do	■まちづくりの事業実施過程（事業実施、住民参加ﾌﾟﾛｾｽ、ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ、体制等）における工夫や特徴について記入して下さい。 ・建築物または工作物の外装改修等で、「景観づくり基準」に適合しているものについて、費用の一部を補助する。 ・「うるしの里会館」をコアとする中道地区のメインストリートにおいて、景観に配慮した照明灯の設置や舗装の高質化整備を行なうなど、伝統産業を象徴する街並み景観の演出を行った。 ・道路拡幅および公共下水道整備により、安全性の確保や生活環境の改善を図る。
評価：Check	■まちづくりの目標達成度合に関する補足説明を記入して下さい。 ・来街観光客については、核となる「うるしの里会館」のリニューアル（H16）に併せ、「軒下工房」などが点在する回遊性ゾーンの景観整備などを行ったことで、目標値を大幅に上回る来訪者があった。 ・計画段階から道路の景観整備などに対して住民の意見を取り入れたことや、それらの整備が形になって現れたことにより、景観に対する住民の意識が高揚し、現在、河和田中道まちづくり委員会が中心となり清掃活動を積極的に実施している。
改善：Action	■今後の方針における改善の実施や、その特徴的な取り組み等について記入して下さい。 ・まちづくり委員会などに地域の若者が積極的に参画できる仕組みづくりや、「河和田アートキャンプ（京都精華大学の学生が中心となり、当地区の古民家に滞在して住民と交流しながら芸術活動を行う）」等の地域内外の住民の交流ができるイベントの拡充などにより、地域の活性化を図る。 ・うるしの里会館を核として、越前漆器の魅力を日本の伝統産業として世界に向けて、積極的な情報発信を行う。 ・増えつつある来訪者に対する案内・語り部などの解説者の人材育成や、漆器職人が見え、ふれあいやすいまちを目指す。

まちづくりの効果、持続的取り組み	■「住民満足度」「相乗効果」「波及効果」、および「成果持続」のための取り組みなどについて記入して下さい。 災害復旧と一体となった道路拡幅や景観整備などのまちづくり事業に対する地元住民の満足度は高い。今後は、地域に定着しつつある「河和田アートキャンプ」も支えながら、地域住民が主体となった人口定着・後継者育成・地域活性化の取り組みを行政も支援していく必要がある。 本年１月末の豪雪時には、「河和田アートキャンプ」で活動していた京都精華大学の学生等が当地区を訪れ、ボランティアで高齢者宅の屋根雪下ろしを行うなど、地域とのつながりもより一層深まってきている。

■本事業のPR資料（写真、新聞掲載記事等）

外観が修景された民家

景観に配慮した高欄で架け替えた日の出橋

景観に配慮した高欄で架け替えた大門橋

河和田アートキャンプ活動状況

整備事業の完了を祝い中道通りを歩く住民＝鯖江市河和田町の日の出橋

鯖江・中道・大門通り

景観整備 完成祝う

11年がかり、伝統的な趣

鯖江市の「まちづくり推進地区」である河和田町の中道通り（約900㍍）と大門通り（約300㍍）の街並み整備事業が完了し14日、記念式典が同町で行われた。住民約100人が実際に歩き、11年がかりでの完成を祝った。

中道通りは、昔の巨坂参道りのたたずまいを残す道路拡幅や伝統的な趣す。道路拡幅や伝統的な建物、里山と調和した風景の保存を目的に2000年「河和田中道まちづくり委員会」が設けられた。03年には同通り沿線が市の景観づくり推進地区に指定されたが、04年には福井豪雨で壊滅的な被害を受けた。05年、復興を加えた「道の景観が国のまちづくり交付金事業に採択され、幅4㍍への道路拡幅、橋（大門橋と日の出橋）の架け替え、景観に合わせた街灯設置（伝統和風住宅13軒の改築など）が実現。河和田アートキャンプに参加した京都精華大学らがデザインした休憩広場2カ所も完成した。総事業費は3億4千万円。

式典は同町が主催し、休憩広場で神事を営んだ。青田公隆会長（71）は「住民にとって道路拡幅は昭和初期からの願望だった。立派に生まれ変わった街並みを、後世に大切に残していきたい」と感慨深げに話していた。

平成 22 年 11 月 17 日 福井新聞

■本事業のPR資料（写真、新聞掲載記事等）

5/25 日刊

アートキャンプ

河和田らしい作品を作ろう

鯖江 京都の学生と住民協議

毎年八月に京都精華大（京都市）の学生らが鯖江市河和田地区で取り組む、芸術を通した交流活動「河和田アートキャンプ」の開催に向けて、今年も学生と地域住民でつくる実行委員会が組織され、本格活動を始めた。本番に向けて協議を重ね、河和田にふさわしい企画構想を詰める。

二十二日夜には同市うるしの里会館で第一回の事前協議会があり、学生四十五人と、受け入れ側の地区区長会や住民団体の代表らでつくる実行委員二十一人が参加。学生たちは今回予定している九つの企画班に分かれ、各班の担当者がそれぞれの構想を説明し、住民を交えて各班で意見交換した。

地域住民（手前）と企画について意見交換する学生たち＝鯖江市うるしの里会館で

実行委員長を務める田中隆准区長会長（六三）＝東清水町＝は「学生たちのアイデアは斬新で将来性があり、私たちも刺激を受ける。彼らの発想と地域の技術をマッチングさせたい」と期待を寄せた。

学生代表の同大デザイン学部三年、鶴井壮一さんは「河和田の人たちが信頼して活動の場所を提供してくれることに、とても感謝している。河和田の人たちと交流しながら、河和田でしかできない作品を一緒に作っていきたい」と意欲を見せた。

（田中宏幸）

平成22年5月25日　日刊県民福井

8/3 福井

若い感性 鯖江で磨け

京都の学生ら創作始める

河和田アートキャンプ

学生が宿泊する古民家前で、木材加工など制作活動に取り組む参加者＝2日、鯖江市河和田町

鯖江市河和田地区を舞台に、京都の大学生らが住民と交流しながら芸術活動に励む「河和田アートキャンプ」が2月始まった。県内外11大学から約150人が参加し、約1カ月にわたり同地区に滞在。作品制作やイベント企画で河和田の夏を盛り上げる。

アートキャンプは福井豪雨をきっかけに同地区に関心を持った京都精華大生らを中心に、2005年から始まった。6回目の今年は「林業」「農業」「伝統産業」「食育」などをテーマに9つのプロジェクトに分かれ活動する。

1日夜に同市西袋町のうるしの里会館で開かれたキャンプインセレモニーには学生や住民、市関係者ら75人が出席。同地区区長会の田中隆准会長（63）＝東清水町＝は「若い感性や柔軟性ある考え方で地区に刺激を与えてくれると期待している。学生と地域が一体となり成功させよう」とあいさつした。

学生は2日、早速山間部や畑、漆器職人の工房など各地に繰り出し、制作活動を始めた。現在約60人が寝泊まりしている木造2階建ての古民家前では、敷地内の竹を利用したバーを開設するため、手際よく木材を加工していた。

制作期間は9月1日までで、2～5日に成果を発表する。

平成22年8月3日　福井新聞

閉会式で「ありがとうございました」と住民らにお辞儀する学生たち＝5日夜、鯖江市河和田町の敷山神社

9/7 福井

学生最多160人 住民と交流

閉会式 地域の支援感謝

河和田アートキャンプ

鯖江市河和田地区で1カ月間繰り広げられた「河和田アートキャンプ」の閉会式が5日夜、同市河和田町の敷山神社で行われた。学生は交流してきた地元住民に対し「多くの方にお世話になり、長期間本当にありがとうございました」と感謝の言葉を述べた。

6年目の今年は、県内外13大学から過去最多の160人（うち卒業生10人）が参加。住民との交流を大切にしながら、8月2日から作品制作やイベント企画を始め、9月2～5日に地区内約20カ所で成果発表を行った。

閉会式には学生や地域住民ら約200人が参加。牧野百男市長は「卒業生も再び訪れるなど、年々盛大になっている。来年以降も河和田に来て、素晴らしい夏を演出してください」と述べた。

学生は「温かい地域の方、漆器や眼鏡の職人さん、小学生など多くの支えで成功させることができました。河和田で築けた交流を今後も大切にしていきます」と感謝の気持ちを伝えた。

4年連続でキャンプに参加した学生5人には、牧野市長から鯖江産のファッショングラスがプレゼントされた。

平成22年9月7日　福井新聞

若さで奉仕

鯖江・河和田 京都精華大生ら

毎年夏に鯖江市河和田地区で実施している「河和田アートキャンプ」の参加学生が30日、同地区を訪れ、独り暮らしの高齢者宅などで雪かき奉仕に取り組んだ。

屋根の雪下ろし作業に励む京都精華大生ら＝鯖江市河和田町

京都精華大生2人と、市内に移住しているOB2人が参加。高齢者宅2軒の軒先や空き家の屋根の雪下ろしをした。

河和田町の丸山敏子さん（82）宅では、スコップやスノーダンプを手に玄関から延びる歩道をせっせと広げていった。丸山さんは「若い人がわざわざ来てくれたという気持ちだけでもありがたい」と笑顔。下山拓弥さん（19）は「今年もまた地区のお世話になる。少しでも力になりたい」と話していた。

平成23年1月31日　福井新聞